生駒フォーラム
NO. 99
発行責任者
高柳　忠夫
（奈良県議会議員）
事務局 東新町２－10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www1.kcn.ne.jp./~forum/
E_mail. forum@kcn.ne.jp

東北震災支援チャリティーバザー

開催日：7月17日（日）10時～14時　雨天決行
会　場：市民オフィス
主　催：生駒から復興を支援する会

つながる、ささえあう 生駒から私にできる支援を

震災後、次の日（12日）から生駒駅でカンパ活動をたくさんの方々のご協力のお蔭でいち早く、せんだい・みやぎＮＰＯセンターにとどける事ができました。

地震から４カ月余り、原発の放射能の心配も重なり前途多難の状況になっています。

日本中が不安をかき立てられている中で少しでも被災者、障害者のみなさんに、私たちでできること、目に見える形で支援を深めていけたらと思います。この会は７名の女性の呼びかけから始まりました。

「つながる」「ささえあう」支援をどのように続けていけたらと話し合い、被災者支援に直接届くバザーを皆様のご協力をいただきながら開催することにしました。どうぞご協力の程宜しくお願いいたします。

バザーの物品を提供してください

期間は、７月１日（金）から10日（日）
午後１時から４時までの間でお願いします。
受付場所　市民オフィスに持ち込んでください。

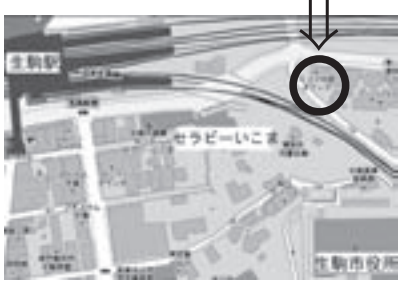
農産物の朝市
農家の方や市民農園の参加者からの野菜です。

被災地の物産
例えば、喜多方のラーメンなど……

写真展
現地ボランティアに参加した生駒フォーラムのメンバーが撮影した“写真”を展示します。

3月12日から生駒駅頭で緊急支援カンパ

この場所です
生駒市東新町 2-10
電話　71-7700



第４回 (毎月第１水曜日)
生駒カメラ i (アイ)
受講生募集 7月6日1時半から
講師は森本康則さん。今回はデジタルカメラの基礎。記録画素、RAW と JPEG, 色空間、画素数について。次回は８月３日
場所は市民オフィスです。

募集中

和歌山フルーツラインの朝市めぐりバスツアー

「道の駅＆もも＆史跡根来寺」

『もも』の季節となりました。

本格的な夏を迎えるにあたって、好評の「道の駅＆もも＆史跡根来寺」バスツアーを企画いたしました。

現在静かなブームとなっている朝市めぐり。当日は和歌山フルーツラインの「道の駅」めぐりを計画しております。夏の果物、もも、すいか、まっか、メロン、すもも・・・そして、夏野菜の『地産地消』の体験ツアー。

歴史ある根来寺も見学予定です。

戦国時代、大きな勢力を備えた根来寺は、当時の様子を書いたルイス・フロイス（イエズス会宣教師）の『日本史』にも紹介されています。

日　時：７月30日（土）
集合場所：生駒駅南側　AM８：００
費　用：大人　３０００円
　　小人　２０００円
（※昼食代金は含みません）
主　催：生駒フォーラム　市民農園部
申し込み先：市民オフィス
　　電話 ７１・７７００
〆切は７／２０です。

５月30日、市民農園部では毎年恒例のさつまいも植えを行いました。台風２号崩れの大雨の中にもかかわらず、当日は多数のスタッフが参加しました。

10月には収穫の秋を迎えられそうです。是非、皆様ご参加ください！

被災地の人々に必要なものは「こころ」

芝生一面がテント村

（石巻市狐崎浜）

南上 勝栄（北大和）

5月2日夜、有志4名で奈良県を出発し石巻市に向かいました。宮城県に入ってから海岸線に近づくにつれ、津波の被害の悲惨さ大きさを実感し、自然の脅威を感じました。翌日、正午頃に石巻専修大学に設置された石巻市ボランティアセンターに到着しました。校舎のワンフロアーを大学の厚意でボランティアセンターが置かれていました。

グランドの芝生の所は一面ボランティアに集まった人のテント村になっており、グランドだけでは足りず、周辺一帯、また河川の土手にもテントが張られ、その数何百カ所、また宿泊用の自動車も停車しており「助けにいく」というボランティア精神を実感し感動しました。今の若い人は頼りないと聞きますが、本当にやる気のある数多くの若者や、また外国人にも参加に感激しました。

自主運営にも感動しました。

数えきれない冷蔵庫が集められていました。

私達の向かう所は、まだあまり支援の入ってない牡鹿半島の南方の狐崎浜という漁村になり、向かう途中の町や村も壊滅状況です。ただ狐崎浜だけは多少津波被害が少なかったとのことです。

狐崎浜にはボランティアセンターと災害本部指示のもと各種団体から約100人程ボランティアが集まり、住民から依頼のあった家屋からの泥だしと、海岸べりに打ち上げられた養殖カキの高さ1メートルの丸型の浮きの回収が割り当てられました。

私達4名は家屋からの泥出しに行き、約20名で1軒1階部分（居間・台所・トイレ等）の泥だし、家具洗い、消臭消毒で丸1日かかりました。

自治体ではボランティアを制限しているところもあるとのことですが、現状は全然足りない状況です。人員の輸送手段の問題等あるとのことですが迅速な対応が必要だと感じました。

今回の東日本大震災で、救援、支援等で大きな教訓を受けました。今後備えを充分にし、被災後の生活の救済等も迅速にまた充分に対応することが課題であり、地域、行政、企業も早急に取り組んでいかなければと感じました。

復興にむけて長い道のりになるかもしれませんが、私達もボランティア活動をとおして共に進んでいこうと思います。（6月24日～29日の日程で再度、石巻に出発しました。）

花巻市東和町ベースに

（2011.5.1 ～ 5.10）

高教組　小南　昌紀

第5次連合被災地支援ボランティアで日教組部隊として岩手県花巻市東和町をベースキャンプとして参加しました。

支援地の大船渡に近づくにつれ目の前に広がる光景にバス内の仲間は驚きというよりため息が漏れていました。それほどの惨状で町全体がまるで絨毯爆撃にでも遭ったのかと思える有様でした。

初日の活動は岸壁に集められた約三千台の自動車の所有者確認作業でした。ナンバーが着いている車は五台に一台ぐらいで、津波にあらわれ車種さえも特定できない車もありました。車内には漁港の冷凍倉庫から流れ出た鰯なども散乱し腐臭が漂っていました。

10台に一台ぐらいの割合でボデーに×マークが付けられており、それは死体が引き出された印だと聞き思わず手を合わせました。

翌日は内陸部の学校体育館に届けられた衣類の仕分け作業をしました。全国から届けられた善意の物資にはちがいありませんが、段ボール箱の中をあけると、古着や季節外れの衣類も混ざっており、男女、種類、サイズで分けなければなりません。仕分け作業の手間を少しでも省くため、送り手側の心配りが必要であることを痛感しました。私たちを差配してくれたスタッフは地元の人たちではなく、秋田県能代市役所から派遣された人たちでした。

その他の活動としては、公園の清掃、雇用促進住宅に入居された家庭への生活物資の搬入、写真洗いを行いました。

最終日は、少し高台にある倒壊をまぬがれた民家の床下の泥出し作業を行いました。一人暮らしのおばあさんの住居です。一階の天井付近の壁にはくっきりと水の跡が残っておりました。床下には厚さ20㎝ほどの黒い乾いた泥が一面に積もっています。腰をかがめ、固まった土を掻きだし、土嚢に詰め、道路まで運び出す業は、日頃肉体労働をしていない私にはきついものでした。ベースキャンプで支給された2個のおにぎりが私たちの昼食です。家主のおばあさんは気を遣い、お茶や自宅で漬けたおいしい漬け物を出してくださいました。お家は亡くなられた夫の形見の住宅だという立派なお家でした。9人で1日かかりで作業をしましたが、二間の床下と玄関先の泥出しが精一杯でした。しかしながら、おばあさんには大変喜んで見送ってくださいました。

8日間の支援活動でしたが、たくさんの思いを持ち帰ることができたように思います。岩手高教組の先生に、被災地の人々に必要なものは「お金」や「モノ」ではなく「こころ」なんですよと言われたことを今も反芻しています。

バスの中から、三階建てのビルの廃墟をみる

学校体育館に届けられた衣類の仕分け作業

写真の手洗い作業

【道草農園】

セイタカアワダチソウ、を見て思う

刈られても芽を出すセイタカアワダチソウ

耕さない畑。いろいろな草と一緒に、育てている野菜、がある。一見、（今の常識では）畑らしくない畑。道草農園をはじめてから3年半。草、動物（主に虫）の種類が増え、畑の中の生態系が充実してきたように思う。

今、梅雨、真最中である。

植物はどんどん大きくなる。

草と一緒といえども、食べようと思って育てている野菜が草に追い越されそうなときは、草を刈る。草を刈りながら、背筋がのびる思いをすることがよくある。最近は、セイタカアワダチソウだ（草刈りをせずにおいておくとすぐに勢力を広げていく）。彼らは、どんなに踏まれても、また起き上がる。どんなに刈っても、また脇から新しい芽を出す。決して、生きることをあきらめない。『今、ここ』を、それぞれが一所懸命、精一杯　生き、命をかけて命をつなごうとしている。

石尾　修一（さつき台）